

後に交換した。各培養液に $[^{14}\text{C}]\text{-EE}_2$ (6000dpm, 500 μg) を加え ethyl acetate で抽出し, Bio-Rad AG1- $\times$ 2 column chromatography, TLC, および再結晶により生成された EE_2 を同定した。

成績: 培養肝細胞の viability は実験期間を通じて 80% 以上であつた。培養した 6 例の肝細胞全例で EE_2 は生成された。培養開始後 0~24 時間で 20.2 ± 6.3 fmol/ 10^6 cells/24h (mean $\pm$ SEM) 生成され, 以後 24~72, 72~120 時間いずれにおいても 1 例を除き ENT アロマトーゼ活性が減少した。また対照として用いたウサギ初代培養肝細胞では EE_2 が生成されなかつた。

結論: 初代培養ヒト肝細胞において ENT アロマトーゼ活性の存在が確認された。したがつて, ヒトでは経口投与された ENT が, 肝臓において一部 EE_2 へ転換される可能性が示唆された。

86. 性成熟婦人における多毛症, 月経異常及び血中 Androgen 動態の関連について

(名古屋大)

市川 弥生, 正橋 鉄夫, 浅井 光興
大沢 政巳, 菅沼 信彦, 呉 明超
水谷 栄彦, 成田 収, 友田 豊
(同・医療技術短大) 中西 勉

目的: 本邦婦人の多毛症の発生頻度, 程度と月経異常および血中 Androgen 動態の関連について研究を行なつた。

方法: 18歳から40歳までの婦人503人を対象とし基礎体温により月経異常を分類した。多毛の程度は Ferriman and Gallway の基準を用いて Scoring した。Total Testosterone (T), DHEA-S, Androstenedione (A) は RIA により測定した。Sex-Hormone Binding Globulin (SHBG) は competitive binding assay にて測定し DHT の Binding capacity として表わした。% Free T は等浸透圧平衡透析法により測定した。Free T は Total T と % Free T を乗じて算出した。

成績: 1) 正常月経群における多毛スコアは, 0-4 点が 83.8%, 10 点以上が 4.3% であつた。一方, 月経異常群では, 0-4 点が 55.5%, 10 点以上が 16.3% であり, 月経異常群に多毛の頻度が高かつた。2) 多毛スコアの上昇に伴い黄体機能不全群が減少し, 稀発月経群, 無排卵周期症群, 無月経群のしめる割合が増加する傾向が認められた。3) 正常月経群では, 多毛スコアと血中 Androgen との間に相関は認められなかつた。月経異常群の 0-4 点の低スコア群の血中 T, Free T,

DHEA-S, A, SHBG において, 正常月経群と有意差は認められなかつたが, 5 点以上の高スコア群においては T, Free T, DHEA-S, A で有意に高値を示し SHBG で有意に低値を示した。4) 正常月経群に比較して無排卵周期症群, 無月経群は, Total T, Free T は有意に高値を示し SHBG は有意に低値を示した。しかし各月経異常群を低スコア群と高スコア群に分けると, 高スコア群で Androgen が有意に高値であつた。

以上のことより月経異常群においては, 多毛スコアにより Androgen 高値を示す症例のスクリーニングが可能であると考えられ, 高スコア群では, 血中 Androgen の測定も含めた精査が必要であると思われた。

質問 (大阪大) 脇本 博

多毛症においては, Testosterone のみならず, もつと potent な 5α DHT の増加していることが報告されておりますが, 血中 5α -DHT ならびに組織の 5α -reductase 活性を検討されましたか。

回答 (名古屋大) 市川 弥生

5α -reductase 及び DHT については, 今回は検討しておりません。

質問 (大阪大) 谷澤 修

多毛スコアは独自のものを用いられているのかどうか。

回答 (名古屋大) 市川 弥生

Ferriman and Gallway の基準を用いて分類しました。

87. ヒト分泌期子宮内膜間質における Steroid receptor 濃度と PRL 分泌能

(京都府医大)

荒堀 憲二, 玉舎 輝彦, 和田 圭介
藤本 次良, 岡田 弘二

目的: ヒト分泌期子宮内膜及び妊娠脱落で, Prolactin (PRL) が分泌されることが知られている。ヒト妊娠脱落膜での steroid receptor と PRL 分泌との関連性を報告してきたが, 妊娠脱落膜は主に内膜間質細胞に由来することから, 今回はこの間質細胞を分離し, そこでの PRL と steroid receptor [estrogen (ER), progesterone (PR), androgen (AR)] 量を測定し, この面より内膜間質での steroid と PRL 産生との関連性を検討した。

方法: 正常月経周期をもつ女性の分泌期子宮内膜を採取し, 日付診を行うと同時に collagenase で処理し, 間質細胞と腺細胞に分け, 間質での cytosol 分画及び核分画での各種 steroid receptor 濃度を測定した。さ